





中国はインターネット大国

大きな国

中国が何と言っても大きな国だということは、北京を訪問しただけでも感じる。たとえば天安門広場だ。地図の上では単なる広場のように見えるが、実際に広場に立つと、いつでも不思議な迫力に圧倒される。

インターネットの世界でも中国の存在感が増している。APNIC  の1999年の統計によると、アジア太平洋地域で割り当てられたIPアドレスは、日本に27%、中国に19%、韓国に19%、オーストラリアに15%、台湾に8%の割合である。中国は大きな割合を占める。

ところが、インターネットのホスト数の統計  を見ると、2000年1月現在で、日本が2,636,541台、オーストラリアが1,090,468台、台湾が597,036台、韓国が283,459台、中国は71,769台に過ぎない。この統計は日本や中国のホスト数を米国から見てカウントしている。このホスト数の統計でみると、中国の順位がAPNICの統計とまるで違う。この落差が、現在の中国の特徴だろう。つまり国内では相当に活発なはずだが、国際的には見えにくい。

同じことは組織についても成り立つ。私が訪問した清華大学や中国科学院は、6年前でもすでにFDDIのLANが敷設されており、説明に使われたコンピュータはシリコングラフィックスであった。それだけの設備を持ちながら、学外や研究所外との接続は低速度に留まっていた。

このような状況が急速に改善されつつある。

日本を抜く勢い

清華大学は、全国の大学の教育研究用のネットワークセンターを持ち、その運用を一手に担っている。そのほかに、現在では北京の街中の大学、研究所を接続する2つの光リングを持っている。市内の事情は大幅に改善された。国際回線の拡充も時間の問題だろう。

私と同じ国際会議のために訪中した農水省の水島明氏は、本年4月にも訪中している。その際に、中国科学院のCSTNETが北京市内で毎秒10ギガビットの光ファイバーを敷設中と聞いて感心した。これは日本の研究機関のネットワークの水準を超える。また、同氏が4



月にCSTNETと中国農業科学院のネットワーク(CAASNET)とを高速に接続できたら嬉しいと表明したところ、7月末には毎秒100メガビット用の工事が完了した。従来の毎秒2メガビットの速度から大幅に増速したという。

大学の建物も変化している。清華大学の現在のネットワークセンターは古い建物で、それが改築中のために余計に混乱している。ところが、その建物の目の前には多数の新築の建築群が並び、その中央には芝生の緑がまぶしい。いかにもリサーチパークの趣である。この際立つコントラストが、現在の中国を象徴している。そして変化は街中に及んでいる。

活気づく街

清華大学、北京大学のある海淀区は、北京の観光地には載らないような周辺地区である。この近辺が、中国のシリコンバレーと呼ばれているようで、電脳(パソコン)を販売する店あり、ベンチャー企業ありで、活況を呈している。この地区は北京の中心部より先交通渋滞がひどいと言われているほどだ。

そのような雰囲気は北京の街中にも充満している。デパートの入り口の傍らにインターネットプロバイダーの受け付けコーナーがある。バスを塗装した広告にドットコム(ドットコム)の企業名が大きく書かれている。携帯電話の店は、どこへ行っても大人気だ。

有名な北京の繁華街、王府井を歩いてみると、昔の記憶にあった雑然とした商業ビルはなく、近代的なガラスの外装のビルに変わっていた。ずいぶんと変化したものだ。清華大学の友人に感想を言うと「そうですか。私は3年ほど王府井には行ってないので、わかりません」と答えが返ってきた。どこの国にも、遊びに行かず、ひたすら働いている人々がいるものだ。

 www.apnic.net

 www.isc.org/ds/



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp